IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

岩手医科大学報

2014.8 No.455

発行者―理事長・学長　小川 彰

第2回 日本災害医療ロジスティックス研修
（写真撮影：画像情報センター、関連記事P2）

Iwate Medical University

主な内容

特集――災害時地域医療支援教育センターの取組み
災害時地域医療支援教育センター長　遠藤　重厚
トピックス――附属病院移転事業に係る記者会見が行われました
オープンキャンパス2014が開催されました
フリーページ――2014 盛岡さんさ踊り

特集

災害時地域医療支援教育センターの取組み

災害時地域医療支援教育センター長　遠藤 重厚

災害時地域医療支援教育センターについて

平成23年3月11日に発生した東日本大震災・津波により、岩手県の沿岸部は壊滅的な被害を受けました。本学では岩手県と連携し、被災地への医療支援を様々な形で実施するとともに、超急性期から現在に至るまで、広域災害における様々な課題を経験してきました。

そこで、文部科学省「大学改革推進等補助金(大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業)」の採択を受け「災害時地域医療支援教育センター」を矢巾キャンパスに設置し、全国に発信できる災害時医療体制モデルの確立、実践としての災害医療教育による人材育成を目指し、事業に取り組んでおります。

活動について

（1）災害時対応の問題点と情報の収集・検証

①災害時データの整理・集計、問題点の抽出・検証

岩手県における超急性期から急性期における病院間搬送の実態把握（東日本大震災・津波時に広域搬送された191名の予後整理実施）、避難所の生活環境に関する実態調査、診療録の分析

②今後の災害時における医療支援の強化

岩手県沿岸部の中核医療機関９箇所における救急搬送及び入院動向調査や、震災で被害を受けた自治体6箇所における保健医療行政担当者から発災後の初期対応についてヒアリングを実施

（2）災害時対応医療人の育成

①教育研修会【平成25年度参加者総数112名】

医療従事者を対象とした災害医療の基礎を学ぶ初級Ⅰコース×２回、初級Ⅱコース×２回、中級コース×１回の計５回実施

②日本災害医療ロジスティックス研修【平成25年度参加者総数81名】

災害医療におけるロジスティックス能力※の向上を図り、今後の大規模災害に備える人材育成を目的として全国初となる組織の枠を超えた研修を実施

※ 災害時に医療を行うための業務調整全般

本年７月24日（木）～26日（土）には、矢巾キャンパスの災害時地域医療支援教育センターをメイン会場に第２回日本災害医療ロジスティックス研修が行われ、全国各地から約60名が参加しました。研修では、通信断絶時における衛星電話の使用方法や衣食住・移動手段の確保などについて、学びました。また、県内各地の医療機関・高校・高速道路サービスエリアの各施設にて、大規模な災害を想定した実践的な訓練を行い、各拠点での本部の立ち上げと本部内におけるロジスティックスの役割の理解を深めました。

③日本災害医療実地研修【平成25年度参加者総数31名】

災害医療の基礎習得と被災地の現状を把握し、災害に対応できる人材、地域医療に貢献できる人材育成を目的として実施（全国の臨床研修医・大学院生を対象）

④地域住民に対する災害教育【平成25年度参加者総数1671名】

県内の小学校、中学校及び自治体に対して災害医療に関する講演を実施

⑤シミュレーション機器を用いた実践的な教育【平成25年度使用実績1832名】

クリニカルシミュレーションセンターの改修工事を実施し、設備の拡充を行いました。現在、医学部第５学年の臨床実習において、シミュレーション機器を使用して手技の練習を行い、その後、デブリーフィング（振り返り）を実施。実際の臨床現場においてスムーズに実習を行うことが可能となりました。

（３）遠隔医療ネットワーク構築

①診療情報提供書のオンライン提供

災害時地域医療支援教育センターに医療情報連携リポジトリを構築しました。
また、本学と県立大船渡病院との間で相互に診療情報提供書、診療情報（画像、レポート、検査、処方等）をオンラインでやり取りすることによって、被災地医療機関との医療連携を行っております。

②テレカンファランスシステムを用いた症例コンサルテーション

本学の各診療科及び県立久慈病院、県立宮古病院、県立釜石病院、県立大船渡病院、高田診療所にテレカンファランスシステムを配備し、相互間にて電子カルテ画面等の共有を行い、症例コンサルテーションを実施しております。天候不良のため本学を受診できなくなった患者さまや通院が負担となる妊婦の方に必要な治療方法やカウンセリングを提供し、治療方針を決定することで、本学と同レベルの診断、治療を提供することが可能となりました。

今後の展望について

未だに３万名を超える方々が仮設住宅で暮らしており、被災地の現状が改善しているわけではありません。災害医療教育による研修を更に充実させると共に、遠隔医療システムの利用推進を目指します。

また、被災地の医療復興を加速させるため、全国から医師を本学に招聘し、岩手医科大学教育職員として、被災地医療機関（県立久慈病院、県立宮古病院、県立山田病院、県立大槌病院、県立釜石病院、県立大船渡病院、県立高田病院）にて勤務をしていただく医師派遣を新たに実施いたします。

体育大会壮行会が行われました

6月30日（月）、矢巾キャンパス体育館で体育大会壮行会が行われました。この壮行会は、「東日本医科学生総合体育大会」「全日本歯科学生総合体育大会」を始め、岩手県民体育大会など各種体育大会が夏期に行われることから、参加学生を激励するために毎年行われています。

壮行会では、小川学長をはじめ、祖父江副学長や学友会総務局委員長の安田圭太さん（医学部４年）などが激励の挨拶を述べました。続いて、ハンドボール部の松舘冬樹さん（医学部４年）が選手宣誓を行いました。

花巻温泉病院で「七夕さんさ会」が行われました

7月11日（金）、花巻温泉病院で「七夕さんさ会」が行われました。

この「七夕さんさ会」は、盛岡さんさに向けた練習成果の披露を兼ねて、例年７月の七夕会に合わせて開催されています。

当日は、室内での開催となりましたが、職員が「七夕くずし」「栄夜差踊り」「新花巻温泉音頭」を披露すると、踊りに合わせた患者さんの手拍子が会場内に鳴り響き、お祭りさながらの活気あふれる催しとなりました。

高度看護研修センター主催の講演会が行われました

7月14日（月）、創立60周年記念館８階研修室で高度看護研修センター主催の講演会『「こころ？」の時代～東日本大震災のスピリチュアルペイン～』が行われました。この講演は、現在活動している緩和ケア認定看護師と研修生との交流や、緩和ケアについての啓蒙の一環として行われたものです。

講師に岡部医院医師・八戸看護専門学校校長の山室誠先生（前東北大学大学院疼痛制御分野教授）をお招きし、緩和ケアや東日本大震災・津波での事例をもとに、「スピリチュアルペイン ～答えのない苦しみ～」について、参加者は理解を深めました。

附属病院移転事業に係る記者会見が行われました

附属病院移転事業に係る内丸メディカルセンター（仮称）の建設事業については、平成30年の開設を目標に平成27年度内に着工することで進めてきましたが、このたび、着工時期を矢巾新病院完成以降に変更することが決定いたしました。

変更の理由は、今後の盛岡市の中心市街地の空洞化対策と将来の街づくりをどうすべきかについて岩手県、盛岡市、商工会議所、岩手医科大学の四者で時間をかけて協議していくことの重要性を確認し、加えて、建設コストの上昇による事業費の増大も踏まえ、国からの支援が可能となる中心市街地活性化計画などを考慮に入れながら、官民一体となった街づくりを進めることとなったためです。

７月16日（水）午後２時30分から、記者会見が行われ、小川理事長と盛岡市の佐藤光彦副市長が今後の方針について発表しました。

第23回医学教育ワークショップが行われました

7月23日（水）、24日（木）の両日、ハワイ大学よりベンジャミン・バーグ教授・大内元（はじめ）医師を講師としてお招きし、矢巾キャンパスの災害時地域医療支援教育センターで、第23回医学教育ワークショップが行われました。

ハワイ大学医学部は「SimTiki Simulation Center」を有し、シミュレーターを利用した医学教育を実施しており、ワークショップではハワイ大学での運用実績の紹介や、シミュレーターの様々な活用方法についてご指導いただきました。

シミュレーター講習（ベンジャミン教授）

グループディスカッション（大内医師）

オープンキャンパス2014が行われました

7月26日（土）・27日（日）の両日、矢巾キャンパスでオープンキャンパス2014が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生とその保護者など約900名が参加しました。

当日は、小川学長による大学紹介や希望する学部に分かれてのミニ講義、体験実習のほか、学食の無料体験、在学生とのフリートーク、教員による個別相談、ドクターヘリ基地の見学など盛りだくさんの企画が用意され好評を博しました。

参加した高校生らは、大学生活に夢や希望を膨らませていた様子で、将来の進路を決めるための有意義な機会となったようです。

賑わいをみせるエントランス

学生による体験コーナー「歯科医療Pro」

ドクターヘリ見学

学生による体験コーナー「細胞を知り、見て、育てる」

シリーズ 職場めぐり No.82

薬理学講座情報伝達医学分野

薬理学講座情報伝達医学分野は、岩手山をほぼ正面に臨む矢巾キャンパス西研究棟３階にあります。現在は平教授以下計３名の教員で薬理学、臨床薬理学の講義および実習を担当しています。

研究活動では、スタッフ自身が単離した細胞接着因子Gicerin、癌抑制因子Amidaの機能解析、ならびに機械的伸展や不整脈誘発といった刺激が心血管系に及ぼす影響について生化学的・分子生物学的手法により解析しています。また、人工甘味料の脳活動に対する影響をfMRIを用いて解析する研究も行っています。

それぞれ仙台、大阪、盛岡出身と個性豊かでありながらも緊密に連携する教員３名に加え、博士研究員１名、実験助手３名と秘書１名が研究・教育活動に携わっています。医学部や薬学部の配属学生も加わり、和気あいあいとしながらも真剣に研究を楽しむ空気が醸成されています。共同研究や大学院生としての参加も歓迎しますので、私達の研究に興味を持たれた方は是非お気軽にお立ち寄り下さい。（准教授　入江康至）

看護部（花巻温泉病院３階病棟）

花巻温泉病院3階病棟は、整形外科病棟です。主に関節温存手術や人工股関節手術、前十字靭帯再建・半月板縫合手術や人工膝関節手術を実施しています。また、小児の先天性股関節脱臼の手術を行う数少ない施設になっています。手術の対象患者様は小児から90歳代の高齢者と幅広く、安心安全な医療を提供するよう心掛けています。

手術前後のリハビリテーションでは、台温泉の源泉を含む温水プールを利用し運動浴を行っています。手術や運動機能障害に対するリハビリテーションを中心に、運動機能の回復に向けて、理学療法士と連携し、リハビリ情報共有用紙の活用や月2回のリハビリカンファランスを行い、患者様の運動が拡大できるように援助しています。また、患者様が安全にリハビリテーションを実施できるように、病棟においても看護師が付添い歩行訓練を行うなど環境の整備に心掛けています。さらに、長期間の療養が必要となるため、患者様の心理的・社会的問題についても細やかな対応に心がけ、必要に合わせて社会資源の活用を行っています。

日々、患者様に質の高い看護が提供できるように努めています。（主任看護師　濱野佳子）

薬学部より

６月28日、29日に慶応大学薬学部で開催されたアジア薬科大学協会第３回薬学部長フォーラム2014において、機能生化学講座中西眞弓准教授がポスター（英語）による本学の紹介を行ないました。

アジア薬科大学協会は2001年に設立され、アジアの会員校同士の相互交流を通し、薬学教育における意見や企画の交換、相互協力促進のための場を提供しています。

今回のフォーラムでは、「アジアの地域ごとに見た薬学教育の調和」をテーマとして、アジア各国の薬学教育関係者約45名と、日本の薬学部・薬科大学の学部長ならびに教員が約150名参加しました。　（文責：薬学部長　前田正知）

理事会報告――6月定例（6月30日開催）

1．創立120周年記念事業について

岩手看護短期大学の移管を受入れ、これを母体とした看護学部を設置する事業について、創立120周年記念事業に位置付けること、事業推進部を企画部に統合し、看護学部設置準備事務室を新設すること、また、創立年の変更に伴い、開学記念日を４月２０日に変更することについて承認

2．教員の人事について

医学部泌尿器科学講座　教授
　小原　　航（前　同講座　講師）
統合基礎講座法医学講座　准教授
　中屋敷　徳（前　同講座　講師）
医歯薬総合研究所生体情報解析部門　准教授
　佐藤　　衛（前　同部門　特任准教授）
医学部形成外科学講座　特任准教授
　木村　裕明（前　同講座　講師）
（発令年月日　平成26年７月１日付）
統合基礎講座微生物学講座感染症学・免疫学分野　教授
　村木　　靖（前 金沢医科大学医学部微生物学講座 特任教授）
（発令年月日　平成26年８月１日付）
医学部内科学講座消化器内科消化管分野　准教授
　中村昌太郎（前 九州大学先端医療イノベーションセンター 准教授）
（発令年月日　平成26年10月１日付）

3．総合移転整備計画事業工程の見直しについて

総合移転整備計画について、歯学部諸室の移設に十分な広さの移設先の確保が困難であること、また、内丸地区の事業を県、市、商工会議所を含めた第２期盛岡市中心市街地活性化計画に参画することから、内丸メディカルセンターの着工時期を矢巾新病院完成以降に変更することについて承認

岩手医科大学報　第455号

発行年月日　平成26年8月31日
発行者　学長　小川　彰
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19-1
TEL. 019-651-5111（内線7023）
FAX. 019-624-1231
E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印　刷　河北印刷株式会社
盛岡市本町通2-8-7
TEL. 019-623-4256
E-mail: office@kahoku-ipm.jp

編集後記

今号の特集は災害時地域医療支援教育センターについて掲載させていただきました。最近は全国各地で様々な災害が発生しており、その災害時に医療体制が整っていることはとても心強いと思いました。また、それに頼るだけではなく個人でも事前に備えておくことが必要だと防災の日を機に、改めて感じました。

話はそれますが、じきに食欲の秋です。美味しいものを食べ、スポーツをして健康でいるのも一つの備えだと勝手に考えているところです。（食べ過ぎるのが難ですが）

（編集委員　武藤 千恵子）

《岩手医科大学報編集委員》

小川　彰　　菊池　初子
影山　雄太　　江刺家和恵
松政　正俊　　佐々木さき子
齋野　朝幸　　米澤　裕司
小山　薫　　佐々木忠司
藤本　康之　　畠山　正充
佐藤　仁　　大須賀志穂
藤本　康之　　武藤千恵子
成田　欣也　　野里三津子
山尾　寿子

盛岡 さんさ踊り -2014-

世界一の太鼓パレードと称される「盛岡さんさ踊り」が８月１日(金）から４日間にわたり開催され、本学は初日のパレードに参加しました。当日は、パレード開始前に本学附属病院外来玄関前で出陣式が行われ、職員・学生が患者さんに踊りを披露しました。その後のパレードでは、小川理事長を筆頭に200名以上の職員・学生が中央通りの約１キロの区間を練り歩き、盛岡さんさ踊り第３番の「栄夜差踊り（えいやさおどり)」を披露し、沿道に詰め掛けた観客や大学関係者からの歓声に応えていました。なお、本学の出場は、今年で連続33回目となります。

写真撮影：画像情報センター